

題字 浜名一雄

第44号

平成 4 年 2 月 25 日

発行者 群馬県山岳連盟
〒371 前橋市大手町1丁目1-1
群馬県庁観光課内
TEL (0272)23-1111
編集 群馬岳連編集委員会
責任者 羽野順一
印刷所 森田印刷
印刷所 森田印刷
〈定価 1部 100円〉



理事 岡安茂能

登山の気風を興せり

1 「冬期南西壁」の成功を

わが群馬岳連が、創立五十周年の記念事業の一環として、群馬県をはじめ多くの方々の支援を得て、冬期サガルマータ南西壁に登隊を送っていることは、非常に意義深い企図であると思う。世界の最高峰を厳寒・強風の悪条件下、急峻な岩壁ルートから登頂をめざすのであるから、それは極めて過酷で困難な挑戦といわねばなるまい。幾多の問題を解決し、様々な障害を克服して、もし登頂が叶うなら、それは多くの人々に人間の可能性への希望を膨らませ、それによって勇気と感動を与えずには置かないであろう。とりわけ現状に甘んじない若者達、訓練に直面している青年達に、たゆむことのない向上心や不屈の精神を培う道標となり、ガイドブックともなるに違いない。目の前に立ちふさがる壁の前で、戸惑ったりいらだたりくじけたりしている少年達に、どうかして突破口を切り開く気持ちを教えてくれるかも知れない。それに同郷の隊員たちの活躍は、世界の屋根ヒマラヤを県民の話題にのぼらせ、日本の山・郷土の山

2 懐の深い登山文化を

晩秋のカラマツ林の中に続く道は、一面に金色のバイルのじゅうたんを敷いたようで、それを踏んで歩いて行く感触が実にいい。車の音も人声もない林の中の静寂が嬉しくて、この道を一日歩いていたいと思うのであるが、しばしばその期待は裏切られる。昨今は、ラジカセ音楽を賑やかに響かせて行く一団に出会うのは珍しくない。あるいはまた、前日まで降り続いた雪の原に縦横に新しい足跡が走っていると、山の獣たちにきつと会えるのではないかと少年のよう

に心が躍るのであるが、その視界に色鮮やかな空き缶や菓子袋などが飛びこんできたりすると、途端に心が重くなるものだ。山も自然もその偉大さ美しさまで蔽いさすゆえに誰からも愛され親

しまれてよいのであるが、その接し方、関わり方が問題である。まず、自然が汚れたり傷んだり壊れたりすることのない付き合い方が要求されるのは論を俟たない。同時に他人の山との付き合い方に理解と配慮を持つことが必要ではないか。たとえば、鋭い岩峰や垂直にルートを切開こうとする激しい息づかいと緊張の中に山の存在を実感する者が居て、他方、鳥や花を追いかけ四季折々の山のたたずまいを確かめる落着きの中にそれを求める者が居る。様々なハン

デイヤップを負った障害者や高令者も山を訪ねる。それぞれに、この山はこう登るのでなければという自分の登山を頑固に追求する一方で、異なる形式・新しい方法によって登山を試みる勇気や、他人の登山を認め大切にしていられる柔かさが要求されていると思

う。山を疲れた心をいやす憩いの場としている人々を忘れてはならないし、息せき切った駆け登り一刻一秒を争って優秀を競う登山競技の選手も応援したい。競技会のために自然が破壊されたり他の登山者が危害や迷惑を蒙るのでは困

るが、起伏に富んだ山を舞台に体力や技術を競う競技登山は、陸上の障害者クロスカントリーにまさって魅力のあるスポーツといえる。競技力の向上によって優れた登山家としての素地が形成されること

もあろう。このように、それぞれ登山が許容され、多くの人々に登山の魅力について経験し正しい登山のルールとマナーについて体

得できる集団登山・大会登山が必要である。わが岳連が主催する県

争大会を更に充実拡大することが望まれると共に、先鋭的登攀の存在理由としている地域の山岳

会も一般市民に開かれた企画を考

え指導性を発揮することを期待したい。

3 山々を生還の友に

今日、私達暖衣飽食の生活にすっかり慣れてしまっ、きつい

きつい山々を生還の友に

第二回山田昇記念杯 登山競争大会報告

総務部 千明 政彦

平成三年九月二十九日、昨年の第一回は打って変わって、台風一過による好天に恵まれ、役員の一過も秋晴れのみがこぼれていた。二カ月前には台風による一部コースの崩壊があり、一瞬役員に暗雲が立ちこめたが、必死の努力のコース整備によりバイパスが作られた。そのためにハーサルも本番一週間前に延び、慌ただしく行われたが、何とかこの日を迎えることができた。

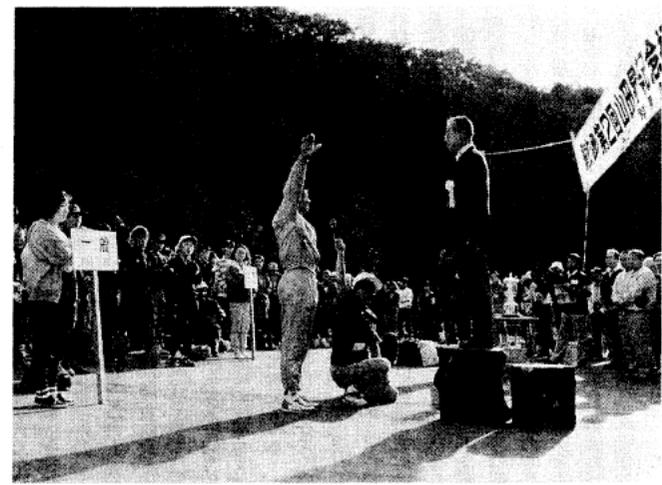
山田杯は百二十八人(参加申込百二十八人)が参加した。今年も山田昇記念杯が返ってきた。星野光大会会長、中曽根はゴールしてくる選手のために、マスの塩焼やおでん等の準備が着

山田杯成績表

| 順位 | タイム | ゼン | 氏名 | 性別 |
|----|----------|-----|-----------|----|
| 1 | 2時12分14秒 | 1 | 千野香 | 男 |
| 2 | 2時14分00秒 | 3 | 山田豊 | 男 |
| 3 | 2時19分59秒 | 108 | 林祐寿 | 男 |
| 4 | 2時25分23秒 | 38 | 草野延孝 | 男 |
| 5 | 2時26分37秒 | 2 | 武田真二 | 男 |
| 6 | 2時27分50秒 | 106 | 荒井理 | 男 |
| 7 | 2時27分56秒 | 6 | 下嶋浩 | 男 |
| 8 | 2時38分08秒 | 72 | 鈴木富士雄 | 男 |
| 9 | 2時39分11秒 | 15 | 小峰悦雄 | 男 |
| 10 | 2時41分11秒 | 28 | 佐久間利美 | 男 |
| 11 | 2時41分24秒 | 5 | 田崎幸治 | 男 |
| 12 | 2時43分57秒 | 117 | 田中末広 | 男 |
| 13 | 2時46分57秒 | 25 | 小久保壯 | 男 |
| 14 | 2時47分04秒 | 27 | 坂田優人 | 男 |
| 15 | 2時47分22秒 | 125 | 高田登司 | 男 |
| 16 | 2時47分52秒 | 87 | 後藤信雄 | 男 |
| 17 | 2時50分44秒 | 65 | 岡谷進 | 男 |
| 18 | 2時53分05秒 | 142 | デュヌ・オコーネル | 男 |
| 19 | 2時53分34秒 | 132 | 内海勲 | 男 |
| 20 | 2時53分43秒 | 77 | 赤石典子 | 女 |
| 21 | 2時54分23秒 | 63 | 廣田稔 | 男 |
| 22 | 2時54分56秒 | 109 | 小池宏明 | 男 |
| 23 | 2時57分20秒 | 122 | 中島剛二 | 男 |
| 24 | 3時00分51秒 | 121 | 中島博志 | 男 |
| 25 | 3時02分40秒 | 141 | 星野久夫 | 男 |
| 26 | 3時03分56秒 | 34 | 阿部悦子 | 女 |
| 27 | 3時06分43秒 | 16 | 篠原延和 | 男 |
| 28 | 3時08分11秒 | 81 | 田中孝男 | 男 |
| 29 | 3時11分09秒 | 83 | 白沢真弓 | 女 |
| 30 | 3時11分57秒 | 55 | 佐伯和男 | 男 |

三枝賞成績表

| 順位 | タイム | ゼン | 氏名 | 性別 |
|----|----------|-----|------|----|
| 1 | 3時04分02秒 | 501 | 藤本祐毅 | 男 |
| 2 | 3時14分38秒 | 509 | 持田耕介 | 男 |
| 3 | 3時16分41秒 | 507 | 鎌滝隆史 | 男 |
| 4 | 3時24分20秒 | 514 | 小林善郎 | 男 |
| 5 | 3時24分20秒 | 512 | 下山学 | 男 |
| 6 | 3時27分51秒 | 520 | 竹渕工 | 男 |
| 7 | 3時32分57秒 | 528 | 諸田快 | 男 |
| 8 | 3時34分50秒 | 521 | 伊欲勇治 | 男 |
| 9 | 3時39分35秒 | 544 | 深沢賢二 | 男 |
| 10 | 3時40分23秒 | 531 | 星野幸裕 | 男 |
| 11 | 3時40分26秒 | 535 | 川崎雄一 | 男 |
| 12 | 3時42分51秒 | 524 | 後藤猛 | 男 |
| 13 | 3時46分09秒 | 506 | 福本誠志 | 男 |
| 14 | 3時54分58秒 | 519 | 山本元春 | 男 |
| 15 | 4時01分30秒 | 504 | 鈴木謙造 | 男 |
| 16 | 4時04分23秒 | 510 | 新井裕己 | 男 |
| 17 | 4時06分47秒 | 526 | 青木徹之 | 男 |
| 18 | 4時08分22秒 | 502 | 奥村浩 | 男 |
| 19 | 4時09分21秒 | 522 | 玉橋徹久 | 男 |
| 20 | 4時10分36秒 | 505 | 宮下幸久 | 男 |



開会式・選手宣誓

々と進められる。中間点の無線連絡で、山田豊(群馬、第一回3位)選手が一位で通過という連絡が入り、本部でも歓声が騰る。しかし一位でゴールに飛び込んで来たのは、第一回覇者の千野選手のみであった。タイムは二時間十二分四秒というレコードでの圧勝であった。第二位は山田豊さんでトツプとの差は一分四十六秒の二時間十四分〇秒、第三位は林祐寿さんで二時間十九分五十九秒であった。岳連関係者では、赤石典子さん(太田山岳会)が二十位の二時間五十三分四十三秒、中島剛二さん(沼田山岳会)が二十三位の二時間五十七分二十秒、中島博志さん(沼田山岳会)の三時間〇分五十一秒という結果で女子の赤石さんの活躍が目立った。三枝賞の部では第一位は藤本祐毅さん(渋川高校)

(前頁より)
立てに頼り、登山に臨む生徒の力にならない慮れがある。従って顧問のチェックは、必要な項目の有無ではなく、記載された項目を登山の実際はどう活用する積りであるかを問うものでなければならぬ。装備も然り。機能性の高い高い価値な装備も、それを携帯しているに越したことはないが、どのような場面でもどう使用するか、使える武器となっているか、それを点検・指導して行くものでありたい。

「登山の気風を興作すべし」と明治の地理学者・志賀重昂はその著『日本風景論』の中で訴えた。志賀は強烈なナショナルリズムに立つて日本の自然の美しさを称揚してやまなかったが、私達は海外にも目を向け、地球規模の自然との付き合い方、資源の開発や有効利用、動植物の保護、環境の保全など、が問われる時代に生きている人間と自然との調和が図られるように、一層登山の気風を興し、山々と正しく付き合って行きたいものである。

の三時間四分二秒で、第二位は持田耕介さん(高崎高校)、第三位は鎌滝隆史さん(富士通技術学院)という結果であった。

ゴールの川場キャンプ場では、マスの塩焼、豚汁、おでん、そしてビールが疲れた選手の喉とお腹を癒してくれた。昨年同様、山田家から実兄の豊さんらが、焼肉、りんご等の差入れをおこなってくれた。今年は天気の良いため一段

92 冬山合宿報告

一月二十一日、体協会館において、十団体十六名が参加して、冬山合宿報告会が行なわれた。

今年の冬山は、各山城とも暖冬で雪が少なかったところへ、二十七日から二十九日にかけて大量の降雪があり、非常に不安定な状態であった。

各会とも、この雪に苦勞させられたよう、登山の成功・失敗はこの雪にどのように対処できたかによると思われる。

沼田山岳会 一ノ倉尾根
 L 柳沢章 梁瀬佐市
 一ノ倉尾根は、新雪が非常に不安定なため天神尾根と合流する。
 ・天神尾根
 L 星野芳寿、真下浩 水野金太郎、宇田川邦司、坂井滋夫、川田明美、見城正造、山田豊三、三隊に分れて行動した。A 隊は一ノ倉尾根のサポート、B 隊は三十一日熊穴沢小屋に入り、一日に山頂往復して下山。C 隊は一日に肩の小屋に入り、二日下山した。

境町山の会 宝剣岳
 L 大山洋次 星野久夫 黒沢成実 須永敏夫 篠原敏雄
 成実 須永敏夫 篠原敏雄
 沈沢真一 藤倉嘉敏
 三十日、ロープウェイにて入山。膝位までのラッセルが有る。宝剣山荘に天幕を張り、三十一日駒ヶ岳と宝剣岳に登る。一日に予定していた三ノ沢岳は、ガスで視界がきかず中止する。
太田山岳会 仙丈岳
 L 佐藤清治 玉水伊太郎 新井弘 飯塚紘一 小此木次雄 岡田米夫 町田幸男
 二十九日に入山、北沢峠にテントを張る。三十日は、全員で駒津峰を往復。三十一日は二パーティに分れ、駒ヶ岳(三名)と仙丈岳(四名)に登る。一日は仙丈岳に三名が登り、他は下山する。ほぼ、予定通り行動することができた。

平丹治忠敏
 二十七日、大町ゲートより入山。雪が少なく、内蔵助合出まで、夏道風に歩ける。
 二十六日は朝から雨が降る。十時頃、雪に変わったので出発し、内蔵助平にテントを張る。
 夜になり、本格的な大雪となる。二、三時間でテントがつかず、それになる。二時間おきの除雪を一晚中続ける。スコップが丁しなないため、一回の除雪に二時間かかる。朝までそれを続ける。
 一晩で二米位の積雪があり、テントの囲りは新雪の壁となった。二十九日、源次郎を中止し、下山を始める。空身で首までのラッセル、底無し沼のようである。もかくようなラッセルを続け、一日に七百米しか進まない。丸山東壁手前にて幕営となる。
 三十日も雪が降り続き、ラッセルに終始する。内蔵助合出まで、一日で登った所を二日かけて下る。三十一日は天候が回復、黒四ダムから大町まで下山する。

今日ほどのドカ雪は、桐生山岳会が剣岳へ通った十八年間で、三回あっただけである。内蔵助は、周囲を山で囲まれている地形の影響で特に雪が多いようである。
前橋山岳会 早月尾根
 L 松村定樹 山田政己 渡辺千賀子 松田龍彦 柴田好久
 相沢季利子
 三名ずつ二パーティで、二十九日と一日に入山する。
 先発はタクシーが伊折の手前、一キロまでしか入らず、三十一日早

月小屋の下、三十一日早月小屋となる。一日は雪のため停滞とし、二日に剣山山頂を往復する。
 三日は後発と合流、新人も居るため、二千六百米地点より下山。会として冬の剣は初めてだったが、他の山と比べ雪の多いのには驚いた。よい勉強になったので、この経験を来年に活かしたい。
群馬登山会 爺ヶ岳東尾根
 L 結城雅則 黒岩三郎 堀越利通 柄沢佐代子 黒岩令子 田中成幸
 二十九日、鹿島部落より入山、前日降った雪のため腰位までのラッセル、千七百米地点に幕営。三十日は吹雪のため十時頃出発、横尾まで。
 一九七六米の鞍部まで登る。ここで軽装の爺ヶ岳アタックに計画を変更。三十一日、爺ヶ岳往復から西岳までの稜線が悪かった。一日に下山する。東尾根は一日で稜線に出るのはきついルート。
 今回、新人が多かったため、この経験が彼らにとって、冬の三千米のひとつのステップとなったと思ふ。

大間々山岳会 爺ヶ岳南尾根
 L 須永武 武井孝広
 三十日、大町ゲートより入山、森林限界にテントを張る。翌日冷池小屋、一日吹雪の中、鹿島槍ヶ岳に登り、森林限界まで下る。
硫黄尾根
 L 矢内勝己 阿部源 小暮文彦 藤井正之
 三十日、七倉より硫黄尾根末端まで、軽い凍傷になった者が居た。手袋などの防寒用具、その他、凍傷予防の対策をもつて一度考えてみる。

泉へ下山。
 天候に恵まれ、快適な登山が楽しめた。例年に比べ、積雪は少ないようだったが、状態が不安定で、岩峰の基部をトラバースすることができず、硫黄岳、赤岳の各ジャンタルム群とも、ザイルを使用したの登攀となった。
 硫黄尾根は、本当に長い。岩と雪の素晴らしいルートであった。伊勢崎山岳会 東鎌尾根
 L 中西和弘 高橋武行 後関晴美 田島忠夫
 三十一日に合戦小屋まで入る。一日、大天井ヒュッテ。二日、槍沢ヒュッテ。三日、槍沢を下降、横尾まで。
 日程が遅れたため槍ヶ岳に登らず、槍沢下降となり残念。大天井から西岳までの稜線が悪かった。
 ・燕岳
 L 井下降弘 阿部建二 松原幸一 下山武志
 一日、燕岳。二日、大天井往復。三日に下山する。
群馬独峰会 八ヶ岳
 L 伊藤雅之 田島等 小暮仁志 吉崎照二見 土屋修吉 小沢勝 後藤満
 岩登りと縦走のパーティに分れて行動する。
 二十八日に入山。行者小屋をへ、一スに行動。
 中山尾根、阿弥陀北稜、赤岳を登る。
 天候に恵まれたが、中山尾根の登攀で、軽い凍傷になった者が居た。手袋などの防寒用具、その他、凍傷予防の対策をもつて一度考えてみる。

各会の報告の後、幾つかの問題点が提示され、意見交換を行う。一つはトランシーバーの問題、暮の冬山検討会に於いて一日三回の発信時間を決め、同じ山城のパーティ間で情報の交換を行なうよう決めてあったが、今回発信出来たパーティはほとんど無かった。その原因はアマチュア無線を使用する隊が多くなったのにその使い方を知っている者が少ないと言ふ意見が出た。
 これからは事故を起こした場合無線で連絡、へりて救助というパターンが多くなるのももっとも研究する必要があると思ふ。
 桐生山岳会より、最近流行の裏地の付いたヤッケについて、短い山行ならば良いが、長い山行では良くないと意見が出された。いつ濡れるとよくなかなか乾かずシユラフなどを濡らしてしまふ。新しい薄手のヤッケを使用し、防寒は下着や、セーターするのが良い。
 その他に年々冬山に登る人が減っているのでは感想あり。大人の数のパーティが少なく、人気のあるルートは混雑するが、自分達でラッセルするようルートは人気がない。冬山での登山者の高年化も進んでいる、等の意見出る。今年各連で冬山に登った人は、五十五名(計画書の提出された者)ちなみに平均年齢は三十五才、最高は六十一才であった。
 雪の山は素晴らしい。頑張つて来年も楽しい山に登りたいものである。(編集部 阿部 源)

美と健康のお手伝い
 ブリジストン自転車
 ナショナル自転車
 ホンダのオートバイ
 一流メーカーは安心です
ヤギル
 サイクルショップ
 前橋市下細井町139-3
 TEL 0272-31-1308

有限会社 山とスキーの店 石井
Dream BOX
 伊勢崎市宮子町78街区1819-1
 TEL.0270-21-8025 FAX.0270-21-8026